

様式第 1（第 15 条関係）

会 議 録

会議の名称	第 1 回和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン策定委員会
開催日時	令和 6 年 7 月 5 日（金）11 時 00 分から 12 時 50 分まで
開催場所	和泉市役所 5 階 5 A 会議室
出席者 (敬称略、五十音順)	【委員】 桃山学院大学経営学部教授 学芸員課程主任 井上 敏 公募市民 大西 起子 一般財団法人和泉市文化振興財団 評議員 久保 尚平 和泉商工会議所 副会頭 高橋 澄代 公益財団法人大阪観光局 常務理事 平田 知敬 独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館館長 松本 伸之 【和泉市】 市長 辻 宏康 教育長 大槻 亮志 【事務局】 教育次長兼生涯学習部長 辻 公伸 久保惣記念美術館 館長代理 田中 ゆかり 副館長兼総括参事 橋詰 文之 総括主幹 奥山 高起 係長 本村 俊也 主任 後藤 健一郎 株式会社ダン計画研究所 宮尾、上岡 【オブザーバー】 一般財団法人 和泉市文化振興財団 理事長 藤原 明
会議の議題	(1) 美術館の現状について (2) 運営ビジョンの構成イメージ・論点シートについて
会議の要旨	事務局より、和泉市久保惣記念美術館運営ビジョン策定における流れ、美術館の現状、運営ビジョンの構成イメージ・論点シートについて説明を行った上で、議事ごとに審議を行った。
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の確認方法	☒ 会議の議長の確認を得ている ☐ 出席した構成員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
その他の必要事項 (会議の公開・非公開、傍聴人数等)	公開会議、傍聴人数 2 名

1. 開会・市長挨拶

2. 委員の紹介・委嘱状の交付

- ・ 委員、事務局の紹介。
- ・ 大槻教育長より委員に委嘱状を交付。

3. 委員長・副委員長の選出

- ・ 選出については、平田委員より事務局（案）はありますか、との意見があり、委員長は井上委員、副委員長は高橋委員に決定。

4. 案件の諮問

- ・ 井上委員長より就任の挨拶。
- ・ 大槻教育長より井上委員長に諮問書を手渡し。

5. ビジョン策定の目的・スケジュールについて

- ・ 事務局より資料2に基づき目的・スケジュールを説明。

【大西委員】

- ・ パブリックコメントとはどういう手続きか教えて欲しい。

【事務局】

- ・ ビジョン案を作ったのち、約1か月市民の皆さまから意見を聞く期間を設けている。市民の意見を踏まえてブラッシュアップしたうえでビジョン案を決定する手続きになる。

【平田委員】

- ・ 第2回以降、ミッション、ビジョン等を議論するということであるが、会議の前に議題に関する資料をご提示頂くのが効率的ではないか。

【事務局】

- ・ おっしゃるとおりである。後ほどご説明する論点シートで内容を説明したうえで、本日の会議の到達点としては論点1について皆さんのご意見を頂きたいと考えている。

【松本委員】

- ・ 目的の中に、「建物のリニューアルを見据えた」とあるがリニューアルは前提とされるのか、確定はされていないがそれを含めた論点であるのか。

【事務局】

- ・ 課題の一つに施設の老朽化がある。ソフト対策を実施する上で、リニューアルが課題解決の手

段のひとつとなるのでリニューアルを見据えたご意見を頂ければと考えている。

6. 議題

(1) 美術館の現状

- ・事務局より資料3～資料19を説明。

【久保委員】

- ・市民創作教室の説明がなかった。現在の時流、キーワードの一つに体験がある。浮世絵版画摺りの体験のような、美術と体験は別で施設は出来上がっているが、どう調和が出来るのか。教室の利用者をどう増やすか、コミュニティも含めて考えると、横にある研究棟も含めてご説明頂くのが良いのではないかと。

【事務局】

- ・創作教室については今後議論が必要である。展示を見るだけでなく、市民が集まる場でもあるので、今回の委員会の中でもご議論頂きたい。

【久保委員】

- ・創作教室の在り方を含めて、地域の美術館として著名な美術館との違いをどう出していくかを考えても良いのでは。新しい利用者を増やし、美術館と一帯でどう繋げるのかを考えるべき。当初体験型を入れるというスタートだったので継承して頂ければと思う。

【松本委員】

- ・文化施設としては、国の施策やI COM（アイコム）京都大会にも謳われているが地域への貢献、一体性、住民参加が美術館・博物館運営のキーワードになる。その辺りの視野も盛り込んで頂きたい。
- ・昔からのボランティアが盛り上げて頂いているように思う。体験型、市民参加型とも関連してボランティアの在り方についても広く位置付けても良いのではないかと。その辺りのポイントを押さえることで厚みが出るのでは。

【井上委員長】

- ・今ご指摘頂いたことは重要な視点である。美術館・地域相互に連携・連動を考えながらやっていかなくてはならない。

【平田委員】

- ・観光の観点では、インバウンドの方は、コロナ禍前は団体で来て有名な観光地を回る傾向にあったが、コロナ禍後は少人数で興味が湧いたもの、日本でしか体験できないことに関心が移っている。浮世絵がどのように出来上がっているのか、そういったことを体験できれば興味が湧くのではないかと。入館者を増加させる施策の一つになるのではないかと。

【大西委員】

- ・ 3月まで京都の大学院に行っており、京都のインバウンドの状況を実感している。漫画ミュージアムでアシスタントをしていたが、インバウンドの方は日本で体験できることにに対してやる気満々である。
- ・ 体験に関して、地域との連携を考えると、和泉市の人材バンクには琴や絵画をされる方等が登録されているので活用ができるのでは。言語の問題はあるが、体験は言葉を超える部分もあるので、簡単な言語を習得していれば可能ではないか。ロケーション的に難しければ、和泉府中駅近くにサテライト施設を設けることも考えられるのではないか。

【井上委員長】

- ・ 京都はオーバーツーリズムにあり、それを防ぐためにもインバウンドが来ていないエリアに人を誘導するのが全体としてはハッピーな一つのやり方。
- ・ 京都、大阪に流れている人をどう和泉市、久保惣記念美術館に呼び込むのかを委員会で考えなければいけない。

【高橋委員】

- ・ 和泉商工会議所にはたくさんの事業者が所属しているので、コラボできないかと考えている。例えばお客様が来たら和泉市の顔として久保惣記念美術館を案内する等できると思う。
- ・ 体験型が面白い。レストランであっても美術展と関わるようなメニューがあるような、楽しさがあれば良いと思った。

【松本委員】

- ・ 何かをしようとするとお金と共に人も必要である。コーディネートする人、アレンジする人、窓口になる人、指導する人が必要になる。美術館側としては業務量が増えるのではと懸念もあるのではないか。そういう面の職員・人の手当、人との交流等の視点についても、将来的な発展を考える上で触れておいたほうが良いと感じる。

【久保委員】

- ・ 小学生のふれあい体験事業を私どもが支援している。当初、父がフランスに行き学校の先生が生徒に教える風景を見たことが原点。美術館はまちのものであり、市民のものという趣旨でスタートしている。
- ・ ふれあい体験事業は、将来的に教えるのは学芸員から小学校の先生へ移行していくというコンセプトであったが、現実とのギャップが埋まっていない。学芸員の負担も大きいと感じる。今後続けるのであれば、どうしていくのが良いかを今回の議題にも挙げて欲しい。

【事務局】

- ・ 今年は先生が説明に関わることを進めている。事前の先生とのコミュニケーションや各先生の力量・やる気にもかかっている。先生にも地元の文化財を知って頂き、先生が教えるのが理想ではある。和泉市としてとても良い事業であることは、他の美術館の学芸員からも評価されており、継続するにしても委員から頂いた意見を踏まえ、より良い形にしていきたい。

【井上委員長】

- ・ 久保惣記念美術館は、学芸員を継続的な雇用していくという点で和泉市の理解があって、他の館と比べても比較的恵まれているといえるが、これから新しいことをするには、人・カネについても十分に手当をしていくことを考えなくてはいけない。
- ・ 全国大学博物館学講座協議会でも学芸員の人材確保が問題になっているので、ビジョンにも視点として盛り込む必要がある。

【大西委員】

- ・ 地域と人と美術館の関係考える中で、東京都の美術館がボランティアを重視して活動をしていることが一つのモデルケースになる。報酬はないが、入館料無料で、ボランティア向けの講座を無料で受けられる。ボランティアに参加する人が元気になれる。元気の良い人々がいる場所に人が集まってくるのではないかなと思う。

【井上委員長】

- ・ ボランティアの方は、美術館に関わることでなんらかの自己実現になっているという部分もある。

【松本委員】

- ・ 久保惣記念美術館の価値を市民が十分知らないと感じる。1.2万点の収蔵品(京都国立博物館は1.5万点)だけでなく活動としても頑張っている。謙虚になることなく、これだけの物を収蔵していることをアピールすることが必要。市を挙げてやって頂きたい。

【井上委員長】

- ・ 大阪市立東洋陶磁美術館の作品のキャプションに、久保惣記念美術館の青磁「万声」がより有名な作品として引き合いに出されて書かれているが、本家本元である久保惣記念美術館が知られていない。日本史の教科書の口絵にも久保惣記念美術館の収蔵品が使われている。それをどうやって伝えるのかを考えないといけない。知名度を挙げていく方策をビジョンに入れていかなくてはならない。

【大西委員】

- ・ 桃山学院大学は久保惣記念美術館の近くにあって、美術館と大学の連携は今もしているが、もっと密接な関わりがあっても良いのではないかな。

【井上委員長】

- ・ 連携については個別に実施しているところが現状である。本学との地域連携は今後考えていきたい。

(2) 運営ビジョンの構成イメージ・論点シートについて

- ・ 事務局より資料 20～資料 21 を説明。

【松本委員】

- ・ 論点シートに書かれていることは、事務局で熟考し漏れなく網羅していると思われるが、書かれていることは10年という期間ではどこがやっても難しいと感じるので、優先順位をどう付けるかが必要。
- ・ 10年先のビジョンは不可欠なものではあるが、第1歩が何で、2歩3歩目が何であるのかを考える必要がある。絵に描いた餅にならないよう、実効性をどう担保するかを委員会での議論の在り方にしたほうが良い。

【平田委員】

- ・ 10年後の美術館がめざすべき姿というのは、久保惣記念美術館が50周年を迎えるタイミングということは理解できるが、10年間でやる内容としてはタイトに感じる。10年後にこうなっていたら良いというプランを作るのか、それ以降も含めるプランを作るのかで中身の書き方も変わってくるように思う。

【事務局】

- ・ 時代の変化も早いので10年を一区切りで今回は考えたい。
- ・ 論点1は10年、20年を経ても大きく揺らぐものではないと考えているが、論点2は到達目標としてどういう姿を目指すか、来館者数のような具体的成果指標もあって考えることである。今回多くを盛り込んだ資料を作成したが、この中でより強化的に取り組む部分が出てくると考える。
- ・ 今回は論点1：新たな価値・役割に絞って委員のご意見を頂きたい。

【松本委員】

- ・ 項目1については①②に論点が絞られていると考えて良いのか。

【事務局】

- ・ 事務局が考えられる要素として①②を挙げているが、多様な側面から足りない要素も踏まえてご意見を頂ければと思う。

【松本委員】

- ・ 今後の在り方の基本姿勢として、美術館からの一方通行はあり得ないので地域社会と相互の交流を図りながら新たなものを創造する拠点となる、そういう言い方がふさわしいと考える。現在の文章に「体験」というキーワードも盛り込んでどうか。

【井上委員長】

- ・ 日本博物館協会が出した「対話と連携の博物館」とも関係があるが、多方向で様々なコミュニケーションを取りながら考える美術館というのもあり得る。

【大西委員】

- ・ 「福祉等の関係機関との連携協力」とあるが、今まで連携は取っているのか。

【事務局】

- ・ 今までは美術館からの働きかけはないが、日常業務の中で障がいを持った方の来館や地域の老健施設の方が利用者を連れて来館することはある。

【大西委員】

- ・ 福祉との連携を取っている美術館もある。人件費の問題もあるが、月曜の休館日に気兼ねなく障がい者が来館できる取組をしているところもある。
- ・ 観光と絡めてインバウンドの方から吸収し、子どもから高齢者までの福祉への取組に還元するやり方もあると思う。

【井上委員長】

- ・ 博物館と福祉との関わりでいうと、北名古屋市歴史民俗博物館では昭和の懐かしい物を展示しており、地域ケア「回想法」の活動拠点ともなっている。ミュージアムは医療や社会福祉の現場においても貢献できる。
- ・ 美術館は小さな子どもから高齢者までコレクションから刺激を受け、自分の人生を豊かにできる場でもあると思う。

【松本委員】

- ・ 項目①ミッションについて、上段の上から3つ目の黒四角の福祉に関する文章を③として入れてはどうか。①②の文章は表現については先ほど申し上げた通り改めて頂くと良い。

【平田委員】

- ・ 万博について、海外パビリオンの出展が少なくなっている。想定では2,820万人の来場者を見込んでいる。うち約9割が国内の方の想定。9割の中で近畿圏内は6割、それ以外が4割と想定。
- ・ 万博を見据えてJRグループと連携して「大阪ビジットキャンペーン」を国内で行う。来週、国内の旅行会社を集めて、販売宣伝促進会議やエクスカーションを行う予定。エクスカーションは大阪市、堺市、大阪府北部、中部、南部に旅行会社の方を連れて、観光コンテンツを作って頂くことになっており南部では久保惣記念美術館にも行く予定。万博に来たお客様を府域の中で周遊ができるような取組強化を考えている。

【大西委員】

- ・ 次回までに委員は何をすれば良いのか。

【事務局】

- ・ 資料21 論点シートの論点①、②、③について、各委員の知見に基づいてお考え頂いたうえで、次回委員会の際にご披歴頂きたいと考えている。

7. その他

- ・第2回、第3回開催日について、事務局より提案
- ・第2回9月10日(火)15時～開催に決定。場所は後日事務局より案内する。
- ・第3回10月22日(火)15時～開催に決定。場所は後日事務局より案内する。

< 終 了 >